様式２
（2020年度）

事業実績報告書

※この報告書は、なごや環境大学のウェブサイト上に記録として掲載されます。

講座番号	B-33	講座名	NPO法人500万人の木曽川水トラスト
記載日	2021/3/20	団体名・企業名	木曽川がもたらす生物多様性の恵みに感謝し、水源の森で学び働く

〈講座全体の概要〉(300字程度)

昨年と同様に、10月に台風襲来で1か月ずつ順延しなければならなかった。さらに、コロナ禍で非常事態宣言が発せられて開催が危ぶまれたが、正月の餅つきを延ばすわけにもゆかず、参加者には無理して来なくてよいことを連絡したうえで、そのまま強行した。その結果、参加者は半減することになってしまった。

これらの困難が伴ったが、プログラム内容をほとんど変えることなく実施することができた。コロナを危惧して参加できなかった皆さんには、非常事態宣言解除後の4月以降の自主プログラムへのお誘いをした。4月は恒例の「春を味わう」と題して野草や山菜を食べる。

※写真１の説明

第1回（11月開催）作業小屋前で集合写真

※写真２の説明

第2回（12月開催）作業小屋前の集合写真、この日は焼いた炭でサンマを焼いて食べた

〈 企画・運営者の声 (感想) 〉(350字程度)

今期も、子供連れのファミリーの参加者が多かったが、昨年ほどではなかった。明らかにコロナ禍が影響していたと思われる。中高年参加者の中に、定年退職後に山村に移住を計画しているカップルがいた。山村暮らしの予備体験するための参加だということだった。若者2名（女子大学生）の参加があったのは明るい材料である。友人同士ではなく、別々の参加だった。

〈 受講者の声(実感した反応及びｱﾝｹｰﾄより) 〉(3～5点、計350字程度)

大人の参加者には、当法人が誕生した経緯、すなわち、御嵩町に計画された巨大産廃処分場反対運動や産廃処分場の是非に関する全国初の住民投票のこと、そもそも木曽川流域の上下流に存在する矛盾、不公平に関する座学を行ったが、高い評価を得た。座学の時間帯は、子供たちはトラストの森の探検をしてもらった。急な斜面をよじ登る冒険コースに大盛り上がりであった。次の機会には、子供を対象にした紙芝居なども考えてみたい。

薪割、炭焼き、焼き芋、炭火焼きさんま、竹細工なども好評であった。